



石川県知事 谷本 正憲

ゆきみらい2022 in 白山の開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

石川県では、平成24年に金沢市で開催して以来、10年ぶりの「ゆきみらい」の開催であり、全国各地から多くの皆様方にご来県いただくことを心待ちにしておりましたが、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受け、WEB開催となりました。

今回、皆様方をおもてなしすることが叶わなかったことは残念ですが、本県では、来年秋の「いしかわ百万石文化祭2023」の開催や令和6年春の北陸新幹線県内全線開業を見据え、本県が誇る魅力の一層の磨き上げに取り組んでいるところです。

感染状況が落ち着いた際には、ぜひ石川にお越しいただき、加賀百万石の歴史と伝統に裏付けられた本物の魅力をご堪能いただきたいと思います。

さて、今回の「ゆきみらい2022 in 白山」では、「古代から現在、白山の恵みを世界へ」をテーマに、自然豊かな地域において、雪がもたらす恩恵を再認識するとともに、これからの「雪との関わり」について意見交換を行うこととなっています。

本県では、いわゆる「38豪雪」をはじめ、これまで度々大雪に見舞われ、その都度、交通の混乱が生じてきましたが、これらを教訓として、除雪計画の抜本的な見直しを行うなど、初動体制の強化や関係機関との情報連絡体制の強化を図り、安全で安心な冬期交通の確保に努めてまいりました。

また、この「38豪雪」により、陸上交通が途絶されたことによる生活物資、なかでも冬期間の燃料確保の要請に応えるために開港した金沢港は、近年、貨物、クルーズの拠点として大きな変貌を遂げています。

さらに、分区制度の導入やライトアップなどに取り組んだ結果、クルーズターミナルに多くの方が訪れており、入館者数が100万人を超えるなど、新たな賑わいの拠点としても定着しています。

一方、雪国では人々の暮らしに雪が密接に関わっており、大きな恩恵をもたらしています。例えば、本県では、日本有数の豪雪地帯である白山に降り積もった雪が、手取川の水となり、手取川扇状地に広がる県下最大の穀倉地帯である石川平野を潤し、大地に恵みをもたらすなど、県民の生活を支える重要な役割を果たしています。

また、白山市では、白山麓のスキー場群や白峰地区の「雪だるままつり」など、雪を資源として活用した地域振興に積極的に取り組んでいるところです。

こうした中、今回のシンポジウムは、活力ある雪国の展望を考える上で、大変意義深いものであり、皆様方にとりましても、多くの示唆に富んだものとなることを大いに期待しています。

最後に、開催にあたり多大なご尽力を頂きました、国土交通省北陸地方整備局、白山市をはじめ、関係の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、皆様方のますますのご健勝、ご活躍を祈念申し上げます、挨拶といたします。